

Step 2

申込受付

農業体験の受入れで最も重要なのは、体験者が希望にかなった体験を選択できるかどうかです。そのため、ホームページやパンフレットなどで、体験内容、時期、作物、受入可能人数、料金、移動手段など正確な情報を知らせることが重要です。また、受入れ判断や事前打合せを円滑にするため、受付時に先方の希望をよく確認しましょう。

POINT

申込者の希望（何を学びたいか、どんな体験がしたいか）を十分に聞く。

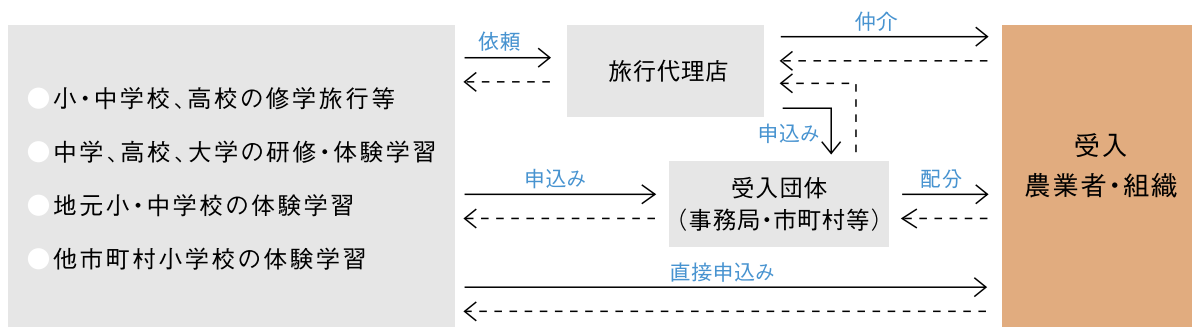
受付は口頭でなく書面で行う。
その際、「申込用紙」を準備しておくとい（本書11ページ参照）。

作業が忙しく、電話に出られないときは、FAXやEメールを活用する。

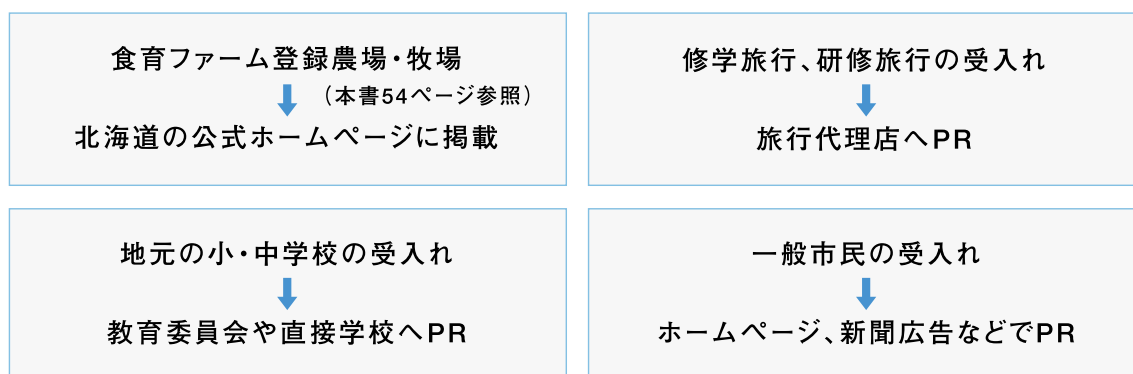
ホームページがある場合は、「申込フォーム」を用意したり、「申込みに必要な項目」を明示する。

受入れルート

■凡例 ———→ 申込み（依頼、仲介、配分） ←----- 内容確認、受入れ判断



周知方法



Step 3

受入れ判断

申込者の様々な希望に対応し、無理をして受入れを行うと、農業体験の受入れを続けることが難しくなります。可能な対応を十分検討した上で、受入れできない場合は事情を説明し、断ることも大切です。また、その場合は、他の農業者や組織と連絡をとり、別の受入先を紹介できるようにしましょう。

※災害、事故、病気、葬祭などで急に体験が受け入れられなくなった場合は、申込者に早急に連絡し、対応を協議しましょう。こうした場合も、誠意をもった対応をすることが大切です。

繁忙期に農業体験の希望が多いことから、この時期においても受入れを行えるよう次のような対応を心がけましょう。

●体験の手順をマニュアル化し、スムーズな体験を心がける ●事前に十分な段取り(準備)を行う ●体験者に適切な説明を行い、遅滞なく体験を行えるようにする ●地域の人たちや関係機関などに協力を依頼

Step 4

事前の準備

申込者にはできるだけ事前に現地を見てもらい、事前の打合せで詳細なスケジュールを作成します。受入人数が多くなるほど集合や時間がずれ込んでいくので、余裕をもったスケジュールが重要です。また、体験時間には限りがあるので、事前・事後学習なども活用し、農業への理解や関心を高めるとよいでしょう。

打合せの際には「チェックシート」を用い、抜け、もれがないよう十分注意します(チェックシートは本書13ページ参照)。

参考

計画の作成手順 例

計画は、必ず申込者(教員)と相談しながら、一緒に立てよう!

01

体験の場所、面積などを決める。
※水田や畑での体験は、図面を作成して考えるとよい。

02

どの順番で、どの作業を進めるか、
時間配分と全体スケジュールを決める。

03

必要な人員を確保し、役割分担を決める。
人員が足りない場合は、近隣の農業者や地域の人、組織などにも協力を求める。
※スケジュールや役割分担は模造紙などに書いて貼り出し、全員が確認できるようにする。

04

各自の服装、持ち物を指示する。
内容によっては、着替え、タオル、長靴、サンダル、軍手などを準備してもらう。
※夏場は熱中症に備えて、帽子、水筒を持参してもらう。

05

食事場所、休憩所、荷物置き場、トイレ、手洗い場、更衣室などを用意する。
 自宅、ハウス、倉庫などを活用すると良い。
 ※大人数の場合は自宅のトイレの他、近隣施設やレンタルトイレの利用も検討。

06

道具、設備を用意する。

- 必要な資材（苗、種など）、道具は、人数に合わせて農業者が用意する。
- スタッフ、協力者を含め、名札を用意する。
- ハンドマイク、メガホン、笛（集合、作業合図）などが必要かどうか確認する。
- 長靴利用時や、裸足で作業する場合は、足洗い場を用意する。
- 家畜との接触や畜舎での体験には、必要な防疫対策を準備（清毒用具、服装、長靴等）。
- 説明用の資料（ポスター、スライド、ビデオなど）や体験作物・種子を用意すると、内容が伝えやすい。

その他

雨天時・中止の場合の対応

- 雨天時の体験内容をあらかじめ申込者と決めておく。
- 悪天候や急な事情により実施できない場合、中止するか、延期するか決めておく。

（判断する時刻、判断基準、連絡方法も合わせて検討）

緊急時対応

- 近隣病院、救急病院（診療日・休日当番）を確認しておく。
- 加入保険会社の連絡先を含め、関係者の緊急連絡先一覧を用意する。

保険の加入

- 体験者が団体の場合には、適切な保険加入を促す。
- 体験者の送迎を行う場合には、適切な保険に加入（必要に応じて加入保険を見直す）。
- 保険加入により生じた費用は体験料金に加える。
- 体験で加入が望ましいのは、損害保険、施設賠償責任保険、自動車保険等であり、必要に応じてその他の保険も検討する。

安全・衛生対策

- 危険箇所、進入禁止などの表示をする（張り紙、ヒモなど）。
- 農場内の清掃、環境整備（機械の移動、清掃、草刈り、家畜ふん尿の処理など）。
- 農薬、農機具などは片付ける。
- 駐車スペースを確保し、足りない場合は近隣に依頼する。
- ペットの管理（犬を鎖につなぐなど）。
- 石けん、消毒液、救急用具などを用意する。
- 野菜を摘み取って試食するときは、残留農薬に注意する。
- 加工体験は衛生的な施設を利用する。乳製品加工には市販乳を使う（食品衛生法に従う）。

個人情報の取り扱い

- 体験の受入れに伴って得た情報は、目的外使用しない。
- 撮影した写真を利用する場合、写っている人全ての了解を得ることが必要（肖像権）。